

※新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、本年度の入試を募集要項どおりに実施することが難しく、変更せざるを得ない事態も予想されます。受験生の皆様におかれましては、随時当ホームページ (<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/admissions-info>) にて情報を発信いたしますので、必ずご確認くださいませようお願いいたします。



京都大学 大学院 総合生存学館

思修館

令和4（2022）年度入学者
京都大学 大学院 総合生存学館（思修館）
（学内特別選抜）

学 生 募 集 要 項



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

令和4(2022)年度入学者
京都大学大学院 総合生存学館(思修館)
(学内特別選抜)
博士課程[5年一貫制] 学生募集要項

本学館に置く課程は、大学院設置基準第4条第3項にいう前期2年及び後期3年の課程に区分しない博士課程で、その標準修業年限は5年です。

本学館では、本学の学部4年生(医学部と薬学部は6年生も可)又は大学院生を対象に、書類審査及び口頭試問による学内特別選抜試験を実施します。

学生募集は4月入学のみ実施しています。10月入学の制度はありません。

1 募集人員

専攻	募集人員	備考
総合生存学専攻	若干名	

2 出願資格

次の各号すべてに該当する者

- (1) 本学に在籍する学部生で、令和4(2022)年3月に卒業見込みの者または本学の各研究科に在籍する大学院生(修士課程、専門職学位課程、博士課程、博士後期課程)
- (2) 本学館に在籍する教員と面談のうえ、研究テーマ・研究計画を打ち合わせて、本学館での研究指導により、標準修業年限(5年)で博士学位を取得できる見込みのある者

3 出願手続

インターネット出願登録及び入学検定料等の納入期間

令和3(2021)年9月22日(水)から令和3(2021)年10月5日(火)まで

この期間中に、インターネット出願の登録と入学検定料の納入を済ませていなければなりません。

出願書類①～⑨(⑧、⑨は該当者のみ)受理期間は上記期間と異なりますのでご注意ください。(令和3(2021)年9月30日(木)から令和3(2021)年10月5日(火)午後5時まで(必着))

出願手続は、出願期間内に「インターネット出願システムでの出願登録」「入学検定料納入」「必要書類の郵送」をすることにより完了します。不備のないよう注意してください。

【操作方法・支払方法に関する問い合わせ先】 インターネット出願ヘルプデスク

TEL 0570-06-5124 (海外および IP 電話からは 03-5952-3902)

受付時間 10:00～18:00

問い合わせ受付期間：登録期間に準じる。

※学生募集要項や入試制度に関するお問い合わせに関しては、総合生存学館事務部教務掛までご連絡ください。

〔1. 出願手順〕

(1) 事前準備

①インターネットに接続されたパソコン等の準備

ご家庭にない場合は、学校や図書館など自宅外のパソコンからも出願できます。

②プリンタの準備

インターネット出願システムの出願登録完了画面からダウンロードできる宛名ラベル及び志願票・写真票を印刷するために必要です。

※プリンタをお持ちでない場合は、学校や図書館、コンビニで印刷してください。

③必要書類の準備 (4 ページ [3. 出願書類] 参照)

④角形 2 号 (角 2) 封筒 (240mm×332mm) の準備

出願に必要な書類を送付するため、市販の角形 2 号 (角 2) 封筒を準備してください。

(2) インターネット出願システムに登録する (登録期間令和 3 (2021) 年 9 月 22 日 (水) ～令和 3 (2021) 年 10 月 5 日 (火) 午後 5 時まで)

インターネット出願システムのページには、本学館ホームページからアクセスできます。 (<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/application-guidelines-gakunai>)

(3) 出願登録

画面の案内に従って、志望情報・志願者個人情報を入力します。

(4) 出願内容の確認

登録した内容を確認してください。内容に間違いがある場合は、「修正する」ボタンを押して修正してください。

(5) 入学検定料納入方法の選択 (決裁情報入力)

画面の指示に従って、入学検定料等の納入方法を選択してください。納入方法として「クレジットカードで支払う」もしくは「コンビニ、金融機関 ATM【Pay-easy】、ネットバンキングのいずれかで支払う」のどちらかを選択できます。

入学検定料 (30,000 円)【国費留学生は不要】の他に支払い手数料 (650 円) が必要となります。

※入学検定料納入後は、登録内容の変更ができませんので、注意してください。

(6) 志願票・写真票を印刷する

出願登録完了画面からダウンロードできる志願票・写真票を印刷してください。

(7) 必要書類の郵送（詳細は4ページ〔3. 出願書類〕を参照すること。）

宛名ラベルを貼り付けた封筒に必要書類を封入し、必ず、書留速達郵便として発送してください。

〔2. 入学検定料等の納入方法等〕

入学検定料等の支払いは、下記期日までに以下のいずれかの方法で行ってください。

詳しい支払い方法については、出願をする際に、インターネット出願システム上の「入学検定料の支払方法について」の項目を確認してください。

令和3（2021）年9月22日（水）から令和3（2021）年10月5日（火）まで

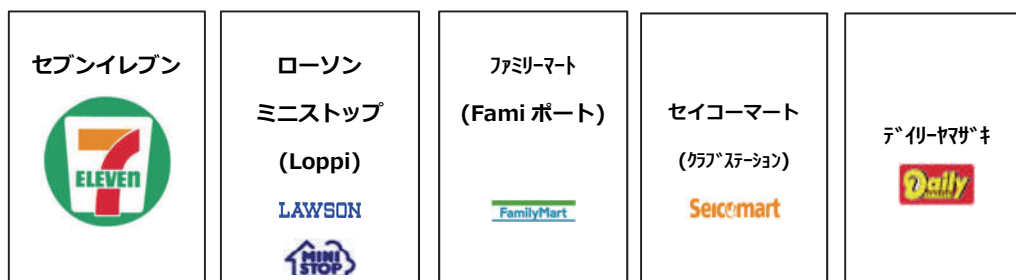
この期間中に、入学検定料の納入を済ませていなければなりません。

①クレジットカード

クレジットカードに記載されている情報を入力しますので、出願前にクレジットカードを準備してください。支払い方法は一括払いのみです。クレジットカードの利用限度額を確認した上で利用してください。お支払いされるカードの名義人は、志願者本人でなくても構いません。

②コンビニエンスストア

現金での支払いとなります。以下のコンビニで支払いが可能です。



③金融機関 ATM 【Pay-easy】

金融機関で Pay-easy マークの付いている ATM で支払うことができます。支払い可能金融機関は下記ページの「ATM 利用可能一覧」を確認してください。

http://www.well-net.jp/multi/financial_list/index.html

④ネットバンキング

都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協などのネットバンキングを利用することができます。事前に金融機関にて申し込みが必要です。

また、楽天銀行、PayPay 銀行、au じぶん銀行、住信 S B I ネット銀行でも支払うことができます。事前に金融機関にて口座の開設が必要です。

※入学検定料の返還について

次の場合を除き、いかなる理由があっても既納の入学検定料は返還しません。

(i) 誤って二重に納入した場合

(ii) 入学検定料納付後、出願しなかった場合及び出願を受理できなかった場合

上記 (i)、(ii) の場合は、後日手続きにより全額返還します。

対象となる災害により被災した方で、罹災証明書を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがありますので、令和 3 (2021) 年 9 月 3 日 (金) までに本学館事務部教務掛へお問い合わせください。

「対象となる災害」については以下のウェブサイトをご参照ください。

京都大学「入学検定料の免除について」

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/fees-exemption>

〔3. 出願書類 (注1) (注2)〕

①志願票・写真票	インターネット出願システムの出願登録完了画面から印刷してください。
②カラー写真 2 枚 (縦 4 cm×横 3 cm) ※同一の写真であること。	<p>同一のカラー写真を出願時に 2 枚提出してください。</p> <p>内 1 枚は上記①写真票に貼り付けてください。</p> <p>上半身脱帽正面向きで出願前 3 か月以内に単身で撮影したものを貼り付けてください。</p> <p>写真の裏面に氏名を記入してください。</p>
③学部の成績証明書及び卒業(見込)証明書	<p>学部長が作成し、厳封したもの。</p> <p>証明書の氏名が婚姻等により現在の氏名と異なる場合は、氏名が変更されたことが確認できる公的証明書 (3 ヶ月以内発行日付) を添付してください。</p> <p>大学に編入した者は、編入前の大学等の成績証明書も提出してください。</p> <p>大学院に在籍している者は大学院の成績証明書及び在学証明書も提出してください。</p>
④指導教員からの推薦書 (1 通)	<p>指導教員からの推薦書の様式は任意です。(厳封すること。)</p> <p>推薦書を提出できない場合は、受験者の所属する学部あるいは大学院の教員 (教授または准教授) で意見を伺うことができる人の氏名及び連絡先を所定の用紙に記入したものを提出してください。用紙は本学館ホームページ</p> <p>(https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/application-guidelines-gakunai) からダウンロードしてください。(A4 用紙)</p>
⑤英語のスコア (原本)	平成 30 (2018) 年 10 月以降に受験した次の(1)から(6)の <u>いずれかの試験のスコア原本</u> 。

(1) TOEFL-iBT (Test Taker Score Report) の ETS から紙媒体で送付された原本。

コピーや受験者自身で印刷したものは不可。

ETS から大学に直送される公式スコアレポート (Institutional Score Report) は利用できません。

(2) TOEFL-ITP

(3) IELTS の Test Report Form

アカデミック・モジュールテストのみ認めます。

(4) TOEIC の公式認定証 (Official Score Certificate)

(5) 実用英語技能検定

(6) 国際連合公用語英語検定試験

出願時にスコア原本の提出が間に合わない場合には、仮の出願として受理しますので、入学試験実施日 (令和 3 (2021) 年 10 月 23 日 (土)) の試験開始前に上記スコアの原本を持参してください。なお、英語の試験について、令和 3 (2021) 年 10 月 23 日 (土) の試験開始前にスコアの原本を持参できない者も、ダウンロードした写しのスコアを持参したうえで、受験を認めますが、その場合でもスコア原本を令和 3 (2021) 年 10 月 28 日 (木) 17 時 (必着) までに提出してください。正当な理由なく英語のスコア原本を提出しなかった場合は、英語を 0 点とし、不合格となります。また、入学検定料は返還しません。(7 ページ 5 選抜方法 を参照のこと)

上記の試験の試験日からスコアの原本が送付されるまでの期間を見込み、出願者は余裕をもって試験を申し込んでください。

スコアを 2 つ以上提出することはできません。

アメリカ合衆国及び英連邦王国 (Commonwealth realm) *を国籍とする者については、英語スコア原本の提出は不要です。

*英連邦王国 (Commonwealth realm) とは以下の国です。

英国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ジャマイカ、バルバドス、バハマ、グレナダ、パプアニューギニア、ソロモン諸島、ツバル、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島、ベリーズ、アンティグア・バーブーダ、セントクリストファー・ネイヴィス
英語のスコアは下記を標準としますが、これら以下の点数であっても出願は可能です。

(1) TOEFL-iBT : (MyBest ™スコア) 80 点

(2) TOEFL-ITP : 550 点

(3) IELTS : オーバーオール・バンド・スコア 6.0

(4) TOEIC : 740

(5) 実用英語技能検定 : 準 1 級

(6) 国際連合公用語英語検定試験 : B 級

⑥小論文	<p>必ず所定用紙を用いて、次の(1)～(2)について記載してください。なお、日本語又は英語で記載してください。また、所定用紙には事前に面談した本学館に在籍する教員1名の署名が必要です。(本学館に在籍する教員については、本要項15ページの表1・表2を参照のこと)</p> <p>用紙は本学館ホームページ (https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/application-guidelines-gakunai)からダウンロードしてください。(A4用紙)</p> <p>小論文の内容の記載については、手書き不可です。ただし、本学館教員の署名は自署です。文字のフォントサイズは11程度で記載してください。</p> <p>(1) あなたが関心を持っている地球規模課題あるいは社会課題とその解決について記載してください※。さらに、本学館への志望理由及び修了後の進路についてのビジョンを記載してください。</p> <p>※回答に含めるべき内容として、その地球規模課題あるいは社会課題に係る学問は何か、これまでに課題解決のためにどのような取り組みが行われたのか、あなた自身がその取り組みをどう評価しているのか、あなた自身が考えられる解決策は何か、等を記載してください。</p> <p>(A4 2枚以内 日本語 1,500字以内、英語で記載の場合は600words以内(参考文献を含まない))</p> <p>(2) 本学館で研究したいテーマと研究計画(目的・意義、新規性・獨創性、仮説・方法、期待される成果等)を記載してください。必要な場合、本文中に該当論文や著書を引用し、最後に参考文献としてまとめてください。</p> <p>(A4 3枚以内 日本語 2,000字以内、英語で記載の場合は800words以内(参考文献を含まない))</p> <p>・上記の字数を超過した場合は減点の対象になります。</p>
⑦受験票送付用切手台紙	インターネット出願システムから印刷した所定の台紙に、384円分の切手を貼ってください。
⑧下記のうちいずれか1点 ・住民票の写し ・在留カード(両面)の写し	日本に在住する外国人のみ。市区町村長の発行するもの(在留カードについては地方入国管理官署の発行したもの)。 ただし、法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。
⑨国費外国人留学生証明書	国費外国人留学生は、提出してください。

注1：出願書類に不備があるもの及び出願書類受付日後に郵送された願書は受理しません。
出願後は、書類に記入した事項の変更は認めません。

注2：出願書類の直筆での記載を要するところは、必ず黒のボールペン又は万年筆で記載してください。

〔4. 出願書類（成績証明書等）受理期間及び送付先〕

令和3（2021）年9月30日（木）から
令和3（2021）年10月5日（火）午後5時まで。（必着）

提出書類到着をもって出願受理としますので注意してください。

成績証明書等の出願書類を取り揃え、インターネット出願システムの出願登録完了画面からダウンロードした宛名ラベルを市販の封筒（角2サイズ 240mm×332mm）の表面に貼り付け、書留速達郵便として発送してください。
直接持参しても、受理しません。ただし令和3（2021）年9月30日（木）以前の発信局消印がある書留速達郵便として、期限後に到着した場合でも受理します。

〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町1 京都大学東一条館
京都大学大学院総合生存学館 事務部教務掛

4 受験票

受験票は受験番号を印字したものを送付します。**試験実施日当日は、受験票を必ず持参してください。**

5 選抜方法

入学者の選抜は、書類審査及び試験により行い、総合的に評価します。

(1) 書類審査【小論文、学部の成績*、英語スコア】

*大学院に在籍している者は、学部及び大学院の成績

(2) 試験【口頭試問】

ただし、口頭試問において「否」と判定された場合は、不合格となります。

なお、筆答試験（専門基礎科目）はありません。

試験実施年月日 ----- 時 間	試験科目	内 容
令和3（2021）年 10月23日（土） 9時00分～（予定）	口頭試問	口頭試問は日本語で実施するが、必要に応じて英語を使用することがある。

(3) 試験場：京都大学大学院総合生存学館（東一条館）

6 合格者発表

(1) 令和3（2021）年11月18日（木）午後3時に京都大学大学院総合生存学館（東一条館玄関）に掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。

また、合格者の受験番号を本学館ホームページ（<http://www.gsais.kyoto->

u.ac.jp/admissions-info/) に掲載します。

なお、電話等による問い合わせには一切応じません。

7 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000 円

注：入学時に改定されることがあります。

(2) 前期分授業料 267,900 円（年額 535,800 円）

注：入学時及び在学中に改定されることがあります。

納付時期等については合格者に通知します。

8 注意事項

(1) 障がい等があり受験上若しくは修学にあたって配慮を必要とする者は、協議しますので、令和 3（2021）年 9 月 3 日（金）までに本学館事務部教務掛にお知らせください。なお、内容によっては対応に時間を要することもありますので、早い時期に申し出てください。事前に申請がないと配慮できない場合があります。

また、出願後に不慮の事故（交通事故、発病）により、受験上の配慮が必要となった場合には、速やかにお知らせください。なお、直前の申請や申請内容により、希望する配慮が行えない場合があります。

(2) 出願者には、受験票及び受験に関する注意事項を郵送します。なお、令和 3（2021）年 10 月 15 日（金）を過ぎても受験票等が到着しない場合は本学館事務部教務掛へ問い合わせてください。

(3) 出願書類の内容に虚偽事項が発見された場合は、合格あるいは入学後であってもそれを取り消す場合がありますので注意してください。

9 個人情報の取扱いについて

(1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

(2) 出願書類に記載されている氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。

(3) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法及び教育課程改善の検討資料作成のために利用します。

(4) 出願書類に記載されている個人情報は、入学者について、①教務関係（学籍管理、修学指導、教育課程の改善等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除、奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

10 入学希望者の施設見学について（新型コロナウイルス感染症の現況を踏まえ、現在休止しております）

入学を希望される方で、研修施設等の見学を希望する場合は、見学希望日（平日の業務時間内）の 2 週間前までに事務部教務掛へ下記事項をメールにて申請してください。申請を許可する場合は、日時を調整し折り返し連絡します。

見学当日は、身分証明書（学生証、運転免許証、パスポート、在留カード等写真付きのもの）を持参してください。

（申込必要事項）

- ・ 見学希望日時（できれば複数の候補日時を挙げてください）
- ・ 所属
- ・ 氏名

・入学希望年度

(見学可能日時)

平日 10:00～17:00 (12:00～13:00 を除く)

土曜日・日曜日・祝日、創立記念日(6月18日)、夏季一斉休業日(8月第3週目の月曜日～水曜日)、12月29日～1月3日は対応不可。その他、臨時に事務室を閉室することがあります。

11 連絡先

〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町1 京都大学東一条館

京都大学大学院総合生存学館(思修館) 事務部教務掛

TEL 075-762-2002

E-Mail gsais-kyomu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※業務時間は平日 8:30～17:15 (12:00～13:00 を除く) です。

これらの時間以外、また、土曜日・日曜日・祝日、創立記念日(6月18日)、夏季一斉休業日(8月第3週目の月曜日～水曜日)、12月29日～1月3日は事務室が閉室しているため、対応できません。

令和3(2021)年7月

京都大学大学院総合生存学館（思修館*）

私たちが生きる地球社会は、今、数々の複合的・構造的な諸問題に直面しています。これらは、文化・産業・経済・国家などの複雑で巨大なシステムに関わる、種々多様でグローバルな課題であり、解決のためには持続可能で創発力のある社会システムが不可欠です。そして、この新たな社会システム構築に向けてリーダーシップを発揮できる人材、ゼロから1を生み出し、実践・持続させていける力を持つ人材の育成が、今、強く求められています。

「総合生存学館」（通称：思修館）は、こうした社会の要請に応え、未来のリーダー育成を目的として平成25年4月に新しく設置した大学院です。

思修館の概要

思修館における教育・研究の基盤となるのは、「総合生存学」という学問です。私たちが直面している課題はいずれも、個人、地域社会、産業システム、社会システム、さらには国家や世界全体が共存するために、そして持続可能な未来を創り出すために、必ず乗り越えなければならない重要かつ複合的な社会課題です。従って、こうした課題を克服するための思想・政策や方法を幅広く探求する学問が必要となります。「総合生存学」とは、「人類と地球社会の生存」を基軸に、関係する諸々の学問体系の「知」を結び付け、編み直し、駆使して、複合的な社会課題の発掘・分析と定式化・構造化を行い、社会実装までの解決を探求する学術の総体であり、「生存知の構造化と公共化」を対象とする総合学術です。

多様な「知」を結集し、実践に応用するためには、いかに智慧を発揮できるかが鍵となります。日本の伝統的な考え方によれば、智慧は、多くの知識や情報を集める「聞」と、様々な知見に基づく創造的「思」をもとに、これらを有効に使い、実践することによって身につく「修」から構成されています。

思修館は、その名前の由来となった、この「聞思修」の考え方にもとづき、生存学を基礎に総合力を結集し、文理融合・異分野融合による知識と、それらを実践的に社会実装できる思考力と実践力を育成していきます。具体的には、国家及び世界と人類を脅かす環境・エネルギー問題、食料・人口問題及びパンデミックなどの地球規模課題や、将来の生命・環境・社会・産業・国家・文明などの生存に関する諸課題の解決を先導できる、柔軟かつ論理的な思考力と堅固な意志力に富んだ人材の輩出をめざします。

さらに、課題解決の方法論、及びその教育方法を確立することにより、山積する諸課題を抱える21世紀地球社会の多元的な調和と新たな発展に向けて挑戦を続けていきます。

*「京都大学大学院思修館」は、平成23年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」のオールラウンド型に採択されました。総合生存学館への入学者は、「京都大学大学院思修館」プログラムを履修することになります。詳細は教務掛にお尋ねください。

思修館の目的と意義

思修館では、幅広い領域にわたる「総合生存学」を確立し、それを修得したグローバルリーダーを育成することを目的としています。この点が、特定分野の研究者育成・専門職人材育成を第一の目的とする、既存の研究科との大きな違いでもあります。

人類社会の生存と未来開拓を担う各界の世界的リーダーには、多様な価値観、広い世界観と見識、確かな哲学と高い志、それらに基づく柔軟な思考が求められます。思修館では、こうした素養を養うために、専門的知識に加え、総合的な文理融合能力及び俯瞰力を培い、複合的社会課題の解決方法を研究し実践する能力を養成します。さらに、こうした人材を輩出することで、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する人材を育成する」京都大学の基本理念を体現していきます。

また、思修館では、異なる分野出身の学生が24時間起居を共にして互いに啓発、切磋琢磨できる環境が重要であるとの考えから、合宿型研修施設を用意しています。このことも、日本では全く新しい試みとして大いに注目されています。

アドミッションポリシー

総合生存学館は、総合生存学における課題解決情報を、机上ではなくその問題が起きている現場に即して創出し、的確に判断・行動できる高度な専門的能力を身につけた人材の育成をめざしています。文理にわたる幅広い専門的学識を積み重ねることで、多様な専門分野を俯瞰する力を培います。また、複数教員の指導と助言のもとで研究基礎力を養い、さらに国内外の社会実践で得られた経験知をモデル化して修得していきます。あわせて、顕在化している個々の問題解決にあたるだけでなく、人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な問題の本質を理解して、総合生存学に基づく世界観・人間力・社会力をもとに自ら課題を設定し、その解決への営みを通じて、グローバルリーダーとなる人材を育成します。

総合生存学館は、次のような能力、適性、意欲を有する者を求めます。

1. 地球規模課題解決のために取り組む研究課題・研究目標を設定できる能力ならびに、研究をやり遂げる意志・能力及び研究を実施するために必要な基礎的能力を有していること。
2. 様々な地球規模課題を解決する強い興味と関心を持ち、自らの将来を計画し、決断、実行する力を有しているとともに、社会において多様な価値・システムを創造するようなグローバルリーダーを目指す意欲を有していること。
3. グローバルに活躍するための基礎となる語学力・コミュニケーション能力を有していること。

育成する人材像

思修館では、生存学における課題解決情報を、机上ではなくその問題が起きている現場に即して創出し、的確に判断・行動できる高度な専門的能力を身につけた人材の育成をめざしています。

そのために、大学学部などで身につけた学術に関する知識をベースに、文理にわたる幅広い専門的学識を積み重ねることで、多様な専門分野を俯瞰する力を培います。また、複

教員の指導と助言のもとで研究基礎力を養い、さらに国内外の社会実践で得られた経験知をモデル化して修得していきます。

また、顕在化している個々の問題解決にあたるだけでなく、人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な問題の本質を理解して、生存学に関わる一体的な世界観・人間力・社会力をもとに自ら課題を設定し、その解決への営みを通じて、グローバルリーダーとなる人材を育成します。

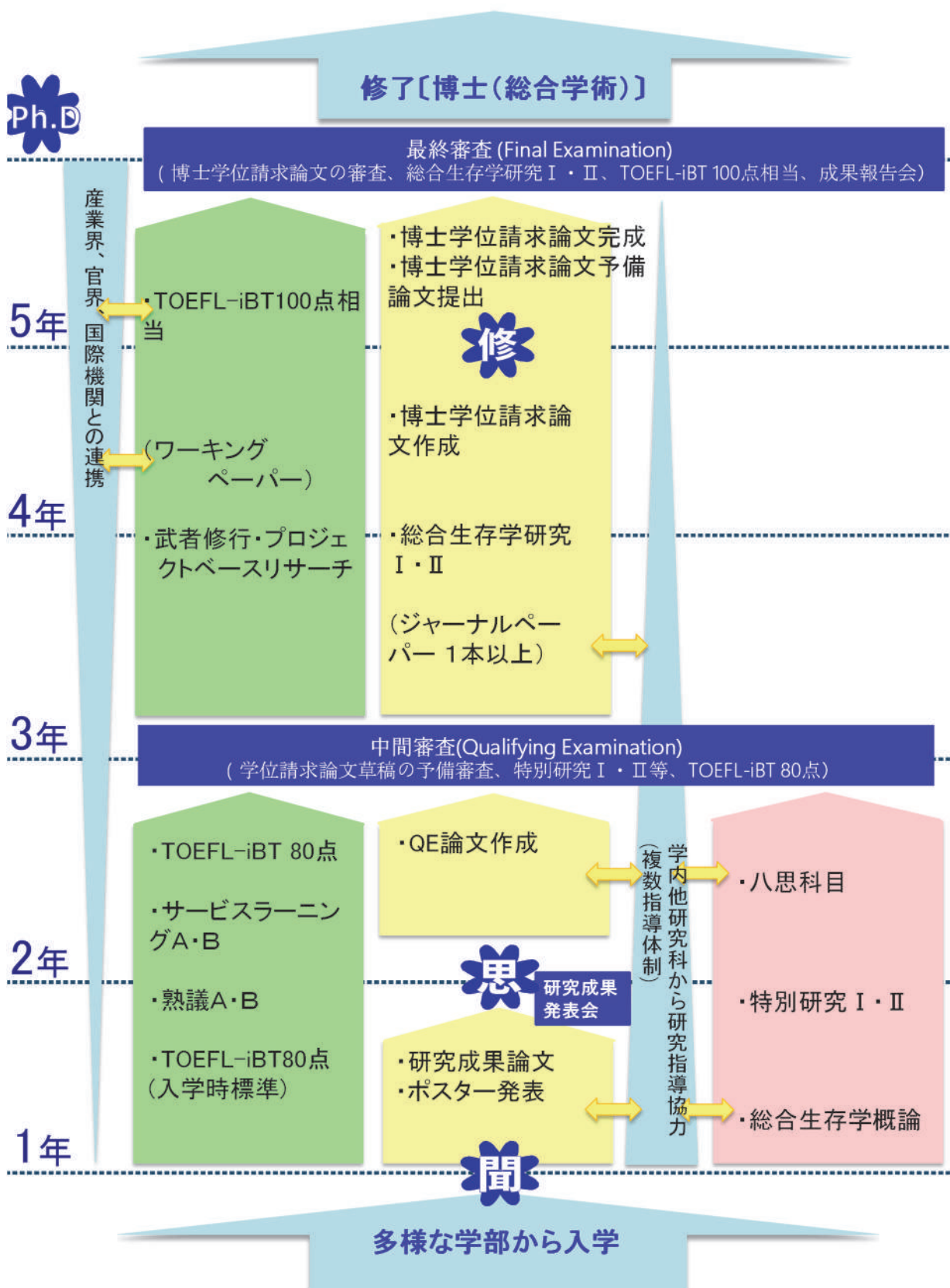
世界で活躍するリーダーの育成

国際機関やグローバル企業への就職を考えている人に思修館が応えます。



カリキュラム構成

国際標準の知識と経験に基づく実践力と志を育む、5年間の総合一貫プログラム



カリキュラムの特徴

特徴1. テーラーメイド型カリキュラム

受け入れる学生の学問背景や基礎的な専門研究分野が異なり、さらに特別研究における研究課題の専門性が学生間で異なることから、学生一人一人に応じたカリキュラム設計を行います。経験豊かな複数の教授陣の助言を受けながら、5年間の学修計画及び必要な履修科目について、系統のかつ経時的に検討を行います。他研究科が開講する専門科目も履修できるよう配慮します。

また、「総合生存学」で求められる幅広い学問的視点を学ぶために、人文・社会・自然科学に関する幅広い八思科目を提供します。そのため、全学から相応しい科目とその担当教員を配置します。

特徴2. 研修施設の利用による対話とディベートによる教育カリキュラムの整備

教員と学生間、学生同士による専門的な課題に関する討論や設定された多様な課題解決に関する討論の場を設け、教員のみならず産官の学外講師（特任教員）を加えたディベートなどによる多様な思考と実践力を育成するためのカリキュラム「熟議」を提供します。そのために、講義室／研究室に加えて、合宿可能な研修施設（合宿型研修施設）を整備し提供します。

特徴3. 複数指導教員制度（専任教員・研究指導協力教員・学外教員による多面的な指導、サポート）

一人一人異なる学問背景と将来への志望に応じたテーラーメイド型カリキュラム、そして、学生が安心して学べるよう配慮した複数指導教員制度を実施します。

多様な研究領域において研究基礎力を修得できるよう専任教員が主指導教員となり、研究指導協力教員をはじめ、全学の教員による研究指導を行う体制が整っており、学生の教育研究を支えます。（専任教員・特定教員・協力教員については、本要項 15 ページ及び 16 ページを参照のこと。）

教員紹介

研究について事前に相談する教員は表1・表2から選択してください。

(本要項4ページ〔3. 出願書類〕. ⑥小論文を参照のこと)

表1：専任教員

氏名	職名	所属	研究領域	連絡先	教員ホームページ	
					教育研究活動データベース	
イケダ ユウイチ 池田 裕一	教授	総合生存学館	データ科学、ネットワーク科学、計算科学	ikedaya.yuichi.2w@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/ikedaya/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/pN6aW
サイトウ ケイ 齋藤 敬	教授	総合生存学館	グリーンケミストリー、サステイナブルケミストリー、サーキュラーエコノミー、化学(環境調和高分子)	saito.kei.ly@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/saito/index.html	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/tI3oP
セキヤマ カオル 積山 薫	教授	総合生存学館	心理学、生涯発達論、認知神経科学、適応学	sekiyama.kaoru.8a@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyama/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/I19wI
タカラ カオル 寶 馨	教授	総合生存学館	水文学、水資源工学、防災技術政策	takara.kaoru.7v@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/takara/index.html	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/iD2dP
ナガヤマ ヒロアキ 長山 浩章	教授	総合生存学館	電力政策、再生可能エネルギー政策、電力事業経営、国際協力	nagayama.hiroaki.3a@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/nagayama/index.html	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/b07iK
ヤマシキ ヨウスケ 山敷 庸亮	教授	総合生存学館	地球惑星科学(水資源工学、環境工学、太陽地球系科学)	yamashiki.yosuke.3u@kyoto-u.ac.jp	http://www.gwrlab.org/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/tL0qH
ヤルナゾフ ディミター IALNAZOV, Dimiter サボフ Savov	教授	総合生存学館	政治経済学、経済開発、新興国及び発展途上国における再生可能エネルギーへの転換	ialnazov.dimitersavov.8w@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/inalnazov/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/mF8mK
カナムラ タカシ 金村 宗	准教授	総合生存学館	ファイナンス、エネルギー経済学、金融工学、リスクマネジメント	kanamura.takashi.3u@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/kanamura/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/mY4bW
セキヤマ タカシ 関山 健	准教授	総合生存学館	国際政治経済学、環境政治学、法と開発	sekiyama.takashi.2e@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/sekiyamataকাশi/index.html	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/pS5pX
チョウ リョウ 趙 亮	准教授	総合生存学館	情報学基礎、計算基盤	liang@gsais.kyoto-u.ac.jp	http://aw.gsais.kyoto-u.ac.jp/liang/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/gT9tC
デロシェ DEROCHE マルク・ヘンリ Marc-Henri	准教授	総合生存学館	哲学、宗教学、倫理学、仏教学、チベット・ヒマラヤ学	deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp	https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/staff/deroche/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/oW3gJ

表2：特定教員

氏名	職名	所属	研究領域	連絡先	教員ホームページ	
					教育研究活動データベース	
イシガ カズヨシ 石賀 和義 ^{注1}	特 定 教授	総合生存学館	金融政策、金融論、証券化、事業再生、事業承継、地域活性化、SDGs/ESG金融、デジタルトランスフォーメーション	ishiga.kazuyoshi.8v@kyoto-u.ac.jp		
クワジマ シュウイチロウ 桑島 修一郎	特 定 教授	総合生存学館	イノベーション論、産学連携論、科学技術政策論、X線解析学	kuwajima.shuichiro.3c@kyoto-u.ac.jp	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/xE7zZ	
ドイ タカオ 土井 隆雄	特 定 教授	総合生存学館	有人宇宙学、宇宙工学、流体力学、天文学	doi.takao.8w@kyoto-u.ac.jp	https://www.usss.kyoto-u.ac.jp/humanspace/index.html	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/uh8sI
トサ ナオコ 土佐 尚子	特 定 教授	総合生存学館	文化とコンピューティング、メディア芸術、アートサイエンスイノベーション	tosa.naoko.5c@kyoto-u.ac.jp	http://tosa.gsais.kyoto-u.ac.jp/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/d65qA
ナベタ ハジメ 鍋田 肇 ^{注2}	特 定 教授	総合生存学館	国際開発協力/政府間協力/国際協力	nabeta.hajime.6x@kyoto-u.ac.jp		https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/1T2bR
ハシモト ミチオ 橋本 道雄 ^{注3}	特 定 教授	総合生存学館	エネルギー政策、エネルギー技術、水素、再生可能エネルギー、国際協力	hashimoto.michio.4x@kyoto-u.ac.jp		https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/iW6nM
シノハラ マサタケ 篠原 雅武	特 定 准教授	総合生存学館	哲学、環境人文学	shinohara.masatake.3a@kyoto-u.ac.jp	https://researchmap.jp/mshinohara	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/mV0xV
シメズ ミカ 清水 美香	特 定 准教授	総合生存学館	公共政策、社会システム、レジリエンス、組織ガバナンス、災害リスクマネジメント	shimizu.mika.5a@kyoto-u.ac.jp	https://resilience-initiative.com/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/oK4kY
タケダ シュウタロウ 武田 秀太郎	特 定 准教授	総合生存学館	計量サステナビリティ学、エネルギー経済学、核融合工学	takeda.shutaro.2w@kyoto-u.ac.jp	http://s-takeda.jp/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/rU7mY

(連絡先の E-mail アドレスについて、*を@に変えてください。)

注1：日本銀行からの出向

注2：国際協力機構（JICA）からの出向

注3：経済産業省からの出向

合格後、表1の中から「主指導教員希望届」を提出していただくことになります。表2に掲載されている特定教員を主指導教員として希望することはできません。

表3：協力教員

氏名	職名	所属	研究領域	教員ホームページ	
				教育研究活動データベース	
イイオン 飯吉 透	教授	高等教育研究開発推進センター	教育イノベーション、高等教育システム、オープンエデュケーション	http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/staff/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/zU4yZ
イナガキ 稲垣 ノブヤ 暢也	教授	医学研究科	内科学、糖尿病・代謝学、内分泌学、栄養学	http://metab-kyoto-u.jp/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/gN2FU
オオガキ 大垣 ヒデアキ 英明	教授	エネルギー理工学研究所	加速器物理、自由電子レーザー、放射線計測、核セキュリティ技術、アジア地区でのエネルギー教育と地方部電化	http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/quantum/ohgaki/index.html	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/bC6kN
カキヅカ 垣塚 アキラ 彰	教授	生命科学研究科	難治性疾患の発症機構及び治療法の開発	http://www.funcbiol.lif.kyoto-u.ac.jp/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/eW01N
カツミ 勝見 ケン 武	教授	地球環境学	地盤工学、地盤環境工学、地球環境学	http://geotech.gee.kyoto-u.ac.jp/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/eY3hE
カワカミ 川上 コウジ 浩司	教授	医学研究科	社会医学、臨床医学	http://square.umin.ac.jp/kupe/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/vL51J
クマダ 熊田 カツネ 孝恒	教授	情報学研究科	認知科学、実験心理学、教育心理学	http://www.genome.ist.i.kyoto-u.ac.jp/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/q07mI
カカイ 阪井 ヤスシ 康能	教授	農学研究科	農芸化学、応用分子細胞生物学	http://www.seigyo.kais.kyoto-u.ac.jp/	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/dA3jL
シオタニ 塩谷 マサト 雅人	教授	生存圏研究所	衛星によるグローバルな大気情報の解析、対流圏・成層圏交換過程の解明、熱帯域における大気微量成分観測	http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/laeia/member/shiotani	http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/vQ0mL
ハラ 原 ショウイチロウ 正一郎	教授	東南アジア地域研究研究所	情報学、デジタルヒューマニティーズ	https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/hara/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/sD4oL
ムラカミ 村上 ヌウスケ 勇介	教授	東南アジア地域研究研究所	ラテンアメリカ研究、政治学	https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/organization/staff-2/murakami/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/aC31H
ヨシオカ 吉岡 ヒロシ 洋	特 定 教 授	こころの未来研究センター	美学、芸術学	http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/staff/hiroshi-yoshioka/	https://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/jF1jG

注：協力教員とは、本学館の教育活動をサポートする他研究科及び研究所等に所属する教員です。

令和4年度 総合生存学館科目配当表（暫定版）

科目名	八思分野	担当教員	開講期		単位	配当年次	必修	
			前期	後期				
必修②単位 総合生存学概論	-	寶・山敷・池田・ヤルナゾフ・積山・齋藤・長山・金村・趙・デロッシュ・関山・篠原・水本・桑島	○		2	1・2	○	
選択④単位以上	日本の農業と環境	医薬・生命	三宅	○		2	1・2	
	医薬政策・行政	医薬・生命	川上		○	1	1・2	
	医薬品の開発と評価	医薬・生命	川上		○	1	1・2	
	人間生態学	医薬・生命	坂本		○	2	1・2	
	有人宇宙医学	医薬・生命	山敷・寺田・水本・他関係教員		○	2	1・2	
	水惑星地球	情報・環境	山敷・浅井・Vladimir	○		2	1・2	
	環境防災生存学特論	情報・環境	山敷・寶・矢守・清水	○		2	1・2	
	地球生存リスク特論	情報・環境	山敷・寶・Cruz・水本・KAMRANZAD		○	2	1・2	
	グローバル生存学	情報・環境	寶・清野・藤井・佐山	○		2	1・2	
	オペレーションズリサーチ概論	情報・環境	趙	○		2	1・2	
	最適化特論 令和3年度不開講	情報・環境	趙		○	2	1・2	
	情報智慧特論	情報・環境	趙		○	2	1・2	
	情報科学基礎論	情報・環境	鹿島・山本・黒橋・河原・西野・岡部・森・水原	○		2	1・2	
	データ科学：理論から実用へⅠ	情報・環境	林（和則）	○ （集中）		1	1・2	
	データ科学：理論から実用へⅡ	情報・環境	中野（慎也）	○ （集中）	○ （集中）	1	1・2	
	科学・学術と社会のコミュニケーション	理工	磯部	○		2	1・2	
	宇宙学	理工	山敷・浅井・磯部・大野・他関係教員		○	2	1・2	
	有人宇宙学	理工	山敷・土井・田口・湯本・寺田・稲谷・他関係教員		○	2	1・2	
	数理統計学-データサイエンス1-	理工	池田	○		2	1・2	
	複雑系科学-データサイエンス2-	理工	池田		○	2	1・2	
	文系のための基礎化学	理工	齋藤	○		2	1・2	
	グリーンケミストリー(環境に優しい化学)入門	理工	齋藤		○	2	1・2	
	心の哲学—東洋と西洋の間	人文・哲学	デロッシュ	○		2	1・2	
	アジア文明を横断した仏教史	人文・哲学	デロッシュ		○	2	1・2	
	認知神経科学特論	人文・哲学	積山		○	2	1・2	
	心理測定論	人文・哲学	積山	○		2	1・2	
	安全安心文化学 令和3年度不開講	人文・哲学	工藤・ラウルナ		○	2	1・2	
	人間・社会・生態系のレジリエンスと持続可能性	人文・哲学	寶・清水・岡田	○		2	1・2	
	人新世の哲学	人文・哲学	篠原	○		2	1・2	
	国際経済学(新興国への応用)	経済・経営	ヤルナゾフ	○		2	1・2	
	持続可能な発展とエネルギー転換	経済・経営	ヤルナゾフ		○	2	1・2	
	エネルギー・ファイナンス論	経済・経営	金村	○		2	1・2	
リスクマネジメント論	経済・経営	金村		○	2	1・2		
グローバルリーダーシップ及びブルーオーシャン戦略概論	経済・経営	河合（江理子）・河合（美宏）	○ （集中）		2	1・2		

	科目名	八思分野	担当教員	開講期		単位	配当年次	必修
				前期	後期			
選択 ⑭ 単位 以上	アントレプレナーシップ演習	経済・経営	木谷		○ (集中)	2	1・2	
	SDGs下で求められる経営戦略 (ケーススタディ)	経済・経営	長山	○		2	1・2	
	環境変化に対応する経営戦略 (ケーススタディ)	経済・経営	長山		○	2	1・2	
	資源ビジネス特論～金属ビジネス の未来～	経済・経営	橋本・清水・堀・菅原	○		2	1・2	
	国際開発政策論	法律・政治	関山		○	2	1・2	
	開発政治学	法律・政治	関山	○		2	1・2	
	国際環境政治学	法律・政治	関山		○	2	1・2	
	エネルギー政策概論	法律・政治	橋本	○		2	1・2	
	中央銀行と金融政策 令和3年度不開講	法律・政治		○		2	1・2	
	金融システムとブルーデンス政策 令和3年度不開講	法律・政治			○	2	1・2	
	文化実習Ⅰ(茶道)(偶数年度開 講)令和3年度不開講	芸術	倉斗・関根	○		1	1・2	
	文化実習Ⅱ(華道)(偶数年度開 講)令和3年度不開講	芸術	芦田・西阪・大津・ 中野(恭心)・松本・桑原		○	1	1・2	
	文化実習Ⅲ(書道)(奇数年度開 講)	芸術	中村		○	1	1・2	
	Imaging Art, Culture and Science	芸術	土佐		○	2	1・2	
	グローバルコミュニケーションⅠ	語学	Lee	○	○	2	1・2	
	グローバルコミュニケーションⅡ	語学	Claxton	○	○	2	1・2	
必修 ⑭ 単位	熟議A	-	関係教員	○		2	1・2	○
	熟議B	-	関係教員		○	2	1・2	○
	サービスマーケティングA	-	関係教員	○	○	1	1	○
	サービスマーケティングB	-	関係教員	○	○	1	1・2	○
	特別研究Ⅰ	-	関係教員	○	○	4	1	○
	特別研究Ⅱ*	-	関係教員	○	○	4	2	○
	武者修行・PBR	-	関係教員	○	○	12	3・4・5	○
	総合生存学研究Ⅰ**	-	関係教員	○	○	4	3・4	○
	総合生存学研究Ⅱ***	-	関係教員	○	○	4	5	○

*「特別研究Ⅰ」を修得した者のみ履修可

**「特別研究Ⅱ」を修得した者のみ履修可

***「総合生存学研究Ⅰ」を修得した者のみ履修可

現時点での暫定版ですの変更する可能性があります。また、以下の科目については、他研究科開講科目または大学院教育科目群(全学共通科目)の科目となります。

科目名	履修上の注意	備考
安全安心文化学 令和3年度不開講	教育学研究科(GSS科目)のため、他研究科聴講で履修登録をする。	
グローバル生存学	GSS科目・大学院共通科目群(全学共通科目の履修登録期間中にKULASISから履修登録を行う。)	
日本の農業と環境	農学研究科(GSS科目)のため、他研究科聴講で履修登録をする。	
アントレプレナーシップ演習	大学院共通科目群(全学共通科目の履修登録期間中にKULASISから履修登録を行う。)	
情報科学基礎論	大学院共通科目群(全学共通科目の履修登録期間中にKULASISから履修登録を行う。)	
データ科学:理論から実用へⅠ	大学院共通科目群(全学共通科目の履修登録期間中にKULASISから履修登録を行う。)	
データ科学:理論から実用へⅡ	大学院共通科目群(全学共通科目の履修登録期間中にKULASISから履修登録を行う。)	

QE 受験要件・課程修了要件

- ・本研究科は、一貫制博士課程であり、その標準修業年限は5年です。
課程修了の要件は、5年以上在学して所定の単位（50単位以上）を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士学位請求論文の審査及び試験に合格することです。修了要件を満たせば、「博士（総合学術）」の学位を与えます。この場合、併せて、TOEFL-iBT100点相当以上又はIELTS オーバーオール・バンドスコア 7.0 相当以上の語学力を有することが要求されます。
- ・2年次末以降に実施される **Qualifying Examination**（以下 **QE**）に合格しなければ、必修科目の武者修行・PBRの履修及び博士論文の審査を受けることができません。
QEの受験要件は、所定の単位（必修科目16単位以上及び選択科目14単位以上の合計30単位以上）を修得し、必要な研究指導を受け、合わせて TOEFL-iBT80 点以上又はIELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上の語学力を有することです。

QE 受験・課程修了に必要な単位

区分	八思分野	単位数（累計）	
		QE 受験	課程修了
必修	—	16 単位	36 単位
選択	医薬・生命	各自の専門分野を除く5分野についてそれぞれ1科目（2単位）を選んで計5科目（計10単位）を履修してください。 他研究科等で提供される科目の中に履修すべき科目があれば、それで代用できる場合があります。なお、学部科目については、全学共通科目を除き学部で開講される専門科目のみ最大2科目4単位まで選択科目に読み替えることができます。（但し、他研究科・他学部等科目の読み替えの可否は教務委員会において審議されます。）	
	情報・環境		
	理工		
	人文・哲学		
	経済・経営		
	法律・政治		
	芸術	講義1科目（2単位）又は文化実習2科目（計2単位）を履修してください。	
語学	英語 「グローバルコミュニケーションⅠ・Ⅱ」のいずれか1科目（2単位）を履修してください。 TOEFL-iBT100点以上又はIELTS オーバーオール・バンドスコア 7.0 以上であれば、グローバルコミュニケーションⅠ及びⅡの履修は不要です。 その場合、他の科目を1科目（2単位）履修し、選択科目の取得単位を合計14単位以上としなければなりません。		
	計	14 単位以上	
合計		30 単位以上	50 単位以上

※1 上記以外に自己の専門科目を履修することを推奨しています。

※2 八思科目

総合生存学館では、「医薬・生命」「情報・環境」「理工」「人文・哲学」「経済・経営」「法律・政治」「語学」「芸術」の8分野（八思）にわたり、学生一人ひとりの専門分野と経歴に合わせ、原則として研究対象としている専門分野を除く7分野から、それぞれ2単位を選択し履修する必要があります。

TOEFL- iBT、IELTS

TOEFL-iBT 100 点以上又は IELTS オーバーオール・バンドスコア 7.0 以上に達している者を除き、少なくとも年 1 回受験し（1 年次は、入学直後に受験してください）、TOEFL-iBT Examinee Score Report 又は IELTS Test Report Form の原本（確認後、返却）を提出しなければなりません。なお、スコアの提出期限は、毎年 2 月中旬頃とします。

修士の学位授与

・2 年以上在学して研究指導を受け、所定の 30 単位以上及び TOEFL-iBT80 点以上又は IELTS オーバーオール・バンドスコア 6.0 以上を取得しかつ特別の事情を有し、指導教員の下承がある者は、修士論文の審査を申請することができます。その審査及び試験に合格する者に、「修士（総合学術）」の学位を与えます。

早期修了

・在学中に優れた研究業績を挙げたと認められた者には、在学期間短縮の道が開かれています。

学生支援

1. 奨学金等

授業料免除・様々な奨学金に関する情報を提供します。申請にあたっては、学館内で選考の上、所定の手続きを行います。詳しくは教務掛にお尋ねください。

令和 3 年度以降、毎年総合生存学館 3 年生の優秀な学生 2 名に「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業」からフェロシップ（生活費年間 180 万円と研究費年間 30 万円）が支給されます。

2. 合宿型研修施設

本学館では、グローバルリーダーに求められる異文化社会におけるリーダーシップ力を育成する教育研究環境づくりを目的として、異文化及び異分野出身の学生が昼夜を分かたず切磋琢磨し交流でき、かつ本学伝統の対話型高等教育研究を実施できる合宿型研修施設を整備しています。この施設は、研究と学習に集中できる日常生活の場として、また熟議や講義のための場として活用します。

研修施設の入居期間は入学年度の 4 月 1 日から博士授与学位日の翌日までの、原則休学期間や武者修行・PBRを開始する日の属する年度を除く通算 4 年を限度とします。

なお、入居者には各居室の光熱水費等の実費及び共益費月 5,000 円を負担していただくこととなります。（共益費の金額は在学中に改定されることがあります。）

3. 長期履修制度

次のいずれかに該当し、長期にわたり修学に相当の影響がある方又はあった方であつて、課程修了に至る計画的な履修が可能な方は、審査を経て長期履修学生として履修を許可された場合、在籍期間を最長 10 年とします（休学期間を除く）。制度の詳細については、教務掛にお尋ねください。

(1)官公庁・企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）及び自ら事業を行っている者などフルタイムの有職者で、計画的に長期履修が可能な者

(2) 出産、育児又は親族の介護を行う必要がある者

(3) 身体等に障害を有する者